

第64回 設備管理全国大会

設備管理・技術カンファレンス



設備管理を制する者はモノづくりを制す！

これからを担う設備管理エンジニアの姿を考える。

日程

2026年3月5日[木] ▶ 6日[金]

会場

浅草橋ヒューリックホール & カンファレンス

(JR 総武線・都営浅草線「浅草橋駅」より徒歩2分)

大会テーマ

01

具現化される
設備管理DX

02

サステナブルな
設備管理

(人づくり・体制づくり・保全技術)

03

設備管理エンジニア
の将来像とは

発表企業・団体

※ 法人名50音順、法人格略

旭化成
エンジニアリング

M2X

カネカ

九州工業大学

JFEスチール

住友化学

東京ファクトリー

トヨタ自動車

日産自動車
(横浜工場)

日産自動車
(いわき工場)

富士フイルム
エンジニアリング

Blue Impact

マツダ

八千代
ソリューションズ

ポッシュ

設備管理全国大会
企画委員会

日本プラント
メンテナンス協会

16社・団体×17事例
設備管理の
未来を切り拓く
知見が一堂に！

発表テーマ

◆ 設備管理に使われるDX

◆ 進化する設備保全・保全技術

◆ 設備管理におけるマネジメント

◆ 人財育成・技能伝承

◆ カーボンニュートラルと設備管理

◆ モノづくり環境変化に対応するTPM活動

参加お申込み

専用サイト<<https://info-jipm.jp/event/management/>>の”参加お申込み”から



	時間	A 会場	B 会場
-	09:30	開場・受付開始	※ A会場前にて受付をします ※ この時間は、A会場にお越しください
-	09:50 ▼ 10:00	開会のあいさつ	
1	10:00 ▼ 10:50	<p>人づくりを原動力に、現有資産を最大限に活かすDX保全への挑戦</p>  <p>マツダ株式会社 本社工場 車体製造部車体工務技術Gr マネージャー</p> <p>植村 清司</p> <p><発表キーワード> 計画保全/人財育成/デジタル技術を利用した改善</p>	
2	11:00 ▼ 11:50	<p>エネルギー設備管理におけるDX推進</p>  <p>JFEスチール株式会社 本社 技術ソリューション部 主査</p> <p>林 弘治</p> <p><発表キーワード> 作業の効率化・容易化/デジタル技術を利用した改善/予防保全・予知保全</p>	<p>コンピテンシーの測定と活用による保全人材育成の成果向上</p>  <p>九州工業大学 工学研究院 機械知能工学研究系 客員教授</p> <p>堀田 源治</p> <p><発表キーワード> 作業の効率化・容易化/安全/人財育成</p>
11:50▶12:45		昼休憩（お弁当をご用意いたします）	※ この時間は、A会場にお越しください
3	12:45 ▼ 13:35	<p>予兆保全に向けた取り組み</p>  <p>株式会社カネカ 高砂工業所 エンジニアリングセンター設備 管理統括グループ機械設備管理 技術チーム</p> <p>主任 坪木 康平 主任 山内 一平</p> <p><発表キーワード> 予防保全・予知保全/計画保全</p>	<p>設備保全DX！ ～トラブルが止まない現場を変えるAI時代の実践ロードマップ～</p>  <p>株式会社M2X 本社 代表取締役CEO</p> <p>岡部 晋太郎</p> <p><発表キーワード> デジタル技術を利用した改善/作業の効率化・容易化/設備の管理方法・基準の見直し</p>
4	13:45 ▼ 14:35	<p>世界共通のIoTソリューションと日本の現場主義との融合</p>  <p>ボッシュ株式会社 東松山工場 パワーソリュー ション事業部製造部門生産技 術部テクニカルITグループ セクション・マネージャー</p> <p>秋原 孝</p> <p><発表キーワード> デジタル技術を利用した改善</p>	<p>振動診断技術とDXで進化する予知保全</p>  <p>旭化成エンジニアリング株式 会社 プラントC & M事業部 プラントライフ技術部 課長代理</p> <p>黒澤 義之</p> <p><発表キーワード> デジタル技術を利用した改善/予防保全・予知保全</p>
5	14:45 ▼ 15:35	<p>新工法設備新規導入時の早期安定稼働の取り組み ～コールドスプレーの事例～</p>  <p>日産自動車株式会社 横浜工場 車両生産技術開発本部 プラント・メンテナンスエンジ ニアリング部 設備信頼性技術グ ループ 課長代理</p> <p>佐藤 佳人</p> <p><発表キーワード> 設備の信頼性向上/設備の管理方法・基準の見直し</p>	<p>設備管理のポイントと人材育成</p>  <p>ドローン・ロボット運用・活 用アドバイザー (Blue Impact株式会社 プラント設備部門 プラント設備アドバイザー)</p> <p>大山 勝彦</p> <p><発表キーワード> 予防保全・予知保全/設備の信頼性向上/人材育成</p>
-	15:35 ▼ 16:30	発表者との交流会	※ この時間は、A会場にお越しください

	時間	A 会場	B 会場
-	09:30	開場・受付開始	※ A会場前にて受付をします ※ この時間は、A会場にお越しください
-	09:50 ▼ 09:55	開会のあいさつ	
6	10:00 ▼ 10:50	<p>アナログ時代に蓄積した技術とデータを活用した設備保全DX</p>  <p>富士フイルムエンジニアリング 株式会社 神奈川事業場 小田原サイト エンジニアリング事業部 課長</p> <p>岩本 浩一</p> <p><発表キーワード> 作業の効率化・容易化/デジタル技術を利用した改善/人財育成</p>	<p>SaaSを活用した定期修繕現場の効率的な運用</p>  <p>株式会社東京ファクトリー 本社 代表取締役</p> <p>池 実</p> <p><発表キーワード> デジタル技術を利用した改善/作業の効率化・容易化/コストダウン</p>
7	11:00 ▼ 11:50	<p>サステナブルな保全体制とスマート保全</p>  <p>住友化学株式会社 大分工場 工務部電気設計保全T</p> <p>宮崎 将太</p> <p><発表キーワード> 品質安定化・向上/作業の効率化・容易化/人財育成</p>	<p>DX時代のTPM ～指標と事例でみるTPMの有効性～</p>  <p>公益社団法人日本プラントメンテナンス協会 企画管理・調査研究部 マネジャー</p> <p>長澤 祐佐</p> <p><発表キーワード> 人財育成/設備の信頼性向上/自主保全</p>
11:50▶12:45		昼休憩（お弁当をご用意いたします）	※ この時間は、A会場にお越しください
8	12:45 ▼ 13:35	<p>省エネ診断は設備の健康診断 ～『もったいない』の見える化で 設備のご機嫌伺い～</p>  <p>日産自動車株式会社 いわき工場 環境エネルギーグループ 指導作業員</p> <p>長谷川 賢二</p> <p><発表キーワード> 環境・省エネルギー/予防保全・予知保全/人財育成</p>	<p>経営課題に挑む設備保全 ～データ活用とアセットマネジメントによる資産価値の最大化～</p>  <p>八千代ソリューションズ株式会社 代表取締役社長</p> <p>水野 高志</p> <p><発表キーワード> デジタル技術を利用した改善/設備の管理方法・基準の見直し/設備の信頼性向上</p>
9	13:45 ▼ 14:35	<p>デジタル(XR)を活用した 『技能の暗黙知の見える化』と 『業務効率化』の取組み</p>  <p>トヨタ自動車株式会社 貞宝工場 モノづくりエンジニアリング部 GM</p> <p>田中 亮太郎</p> <p><発表キーワード> 作業の効率化・容易化/デジタル技術を利用した改善/人財育成</p>	<p>※ この時間は、A会場にお越しください</p> 
10	14:45 ▼ 15:35	<p>パネルディスカッション 設備管理エンジニアの将来像とは (大会まとめ)</p>  <p>設備管理全国大会 企画委員会</p>	
-	15:35 ▼ 16:30	発表者との交流会	

プログラム詳細

<p>1</p> <p>A会場</p> <p>3月5日</p>	<p>人づくりを原動力に、 現有資産を最大限に活かすDX保全への挑戦</p> <p>マツダ株式会社 本社工場 車体製造部車体工務技術Gr マネージャー</p> <p>植村 清司</p> <p>現有資産を活用した設備診断により、追加投資に頼らず設備信頼性と生産性を高める保全技術を確立。人づくりを原動力に、保全員一人ひとりが技術と技能を磨き、自信と誇りをもって挑戦し続ける現場をつくる。日々の保全活動を価値創造の仕事へと進化させる取組みを紹介する。</p>	<p>3</p> <p>B会場</p> <p>3月5日</p>	<p>設備保全DX！～トラブルが止まない現場を 変えるAI時代の実践ロードマップ～</p> <p>株式会社M2X 本社 代表取締役CEO</p> <p>岡部 晋太郎</p> <p>突発的な設備トラブルはなぜ繰り返し起こるのか、事後保全から予防保全へ移行できない現場には、どのような構造的課題が潜んでいるのか。本発表では、多くの設備保全DXを支援してきた経験をもとに豊富な事例を交えながら、AI活用を見据えた保全改革のロードマップを紹介する。</p>
<p>2</p> <p>A会場</p> <p>3月5日</p>	<p>エネルギー設備管理におけるDX推進</p> <p>JFEスチール株式会社 本社 技術ソリューション部 主査</p> <p>林 弘 治</p> <p>JFEスチールにはエネルギー設備が数多く且つ広範囲に存在する。そのためその管理点検作業の負荷は非常に高い。本発表ではこれらの設備管理をより効率的に行うためにJFEで開発した技術について紹介する。（特に受配電設備、ガス配管等などがあり、ロボット活用についても言及する）</p>	<p>4</p> <p>A会場</p> <p>3月5日</p>	<p>世界共通のIoTソリューションと 日本の現場主義との融合</p> <p>ボッシュ株式会社 東松山工場 パワーソリューション事業部製造部門生産技術部テクニカルITグループ セクション・マネージャー</p> <p>秋 原 孝</p> <p>日本のボトムアップ型とは異なり、欧米ではトップダウン型で世界共通のIoTソリューションを活用したDX推進が進められている。しかし、こうした世界共通のIoTソリューションを用いたDXでは、ユーザーが本当に求める機能や現場で使いやすい仕様にカスタマイズする際に課題があった。今回、ボッシュの世界共通IoTソリューションを活用しながら、現場のボトムアップのアイデアを実現するソリューションと、その具体的な事例について紹介する。</p>
<p>2</p> <p>B会場</p> <p>3月5日</p>	<p>コンピテンシーの測定と活用による 保全人材育成の成果向上</p> <p>九州工業大学 工学研究院 機械知能工学研究系 客員教授</p> <p>堀田 源 治</p> <p>保全要員のコンピテンシーを科学的に測定できれば、業務の達成度や安全への配慮の程度を管理者が事前に把握することが可能となり、業務の内容に応じた適材適所の人材マネジメントにより事前に成果の向上と危険回避を図ることが可能になる。本発表では人材のコンピテンシーを定量的に把握する方法とその成果について紹介する。</p>	<p>4</p> <p>B会場</p> <p>3月5日</p>	<p>振動診断技術とDXで進化する予知保全</p> <p>旭化成エンジニアリング株式会社 プラントC & M事業部 プラントライフ技術部 課長代理</p> <p>黒 澤 義 之</p> <p>高度な振動診断技術と半世紀にわたる診断実績にもとづき、無線技術を応用した最新の振動診断装置を開発した。その装置を用いることで、早期の異常検出と異常原因の究明が可能となった。専門家に頼らない良否判定と異常診断、必要時に専門家が遠隔でフォローする最新の「予知保全」のしくみを紹介する。</p>
<p>3</p> <p>A会場</p> <p>3月5日</p>	<p>予兆保全に向けた取り組み</p> <p>株式会社カネカ 高砂工業所 エンジニアリング センター設備管理統括グループ 機械設備管理技術チーム</p> <p>主任 坪木 康 平 主任 山内 一 平</p> <p>当社は2013年から計画主導型設備管理に移行し、それ以降、保全業務のPDCAを意識しながら、故障削減活動や機器別管理基準の運用を通じてトラブル低減を図り、工場の安定操業に貢献してきた。今後、更なる安定化を目指すため、DX技術を活用した予兆保全への取り組みを開始している。本発表では、計画主導型設備管理移行の歩みと予兆保全の取組みについて紹介する。</p>	<p>5</p> <p>A会場</p> <p>3月5日</p>	<p>新工法設備新規導入時の早期安定稼働の取り組み ～コールドスプレーの事例～</p> <p>日産自動車株式会社 横浜工場 車両生産技術開発本部 プラント・メンテナンスエンジニアリング部 設備信頼性技術グループ 課長代理</p> <p>佐 藤 佳 人</p> <p>新工法設備の立ち上げにおいて、量産初期にトラブルが頻発し生産性が向上しない課題があった。本事例では、従来実施していなかった試作機での現物確認や不具合抽出・改善を通じて得られた知見を量産機の製作仕様に反映した。これにより設備信頼性を高め、コールドスプレーの量産設備の早期安定稼働を実現した事例について紹介する。</p>

プログラム詳細

<p>5 B会場 3月6日</p>	<p>設備管理のポイントと人材育成</p> <p>ドローン・ロボット運用・活用 アドバイザー (Blue Impact株式会社 プラント設備部門 プラント設備アドバイザー)</p> <p>大 山 勝 彦</p> <p>設備管理においては、その業務効率的実施と業務負荷の低減という目的に向かうため、DXを進めようとしている。しかし、DXを進めるために、設備管理の現状を把握し、課題を明確にしたうえで、実現可能な到達目標を描き切れているでしょうか。そこで、再度、設備管理の目的を整理し、核となる人材育成、技術伝承の方策を紹介する。</p>	<p>7 B会場 3月6日</p>	<p>DX時代のTPM ～指標と事例でみるTPMの有効性～</p> <p>公益社団法人日本プラントメンテナンス協会 企画管理・調査研究部 マネジャー</p> <p>長 澤 祐 佐</p> <p>急速に進むDXと「設備主体のものづくり」の中で、TPMは現場力、そして企業競争力の強化に有効なアプローチであり、国内外でますます進化・強化され、経営への貢献度を高めている。今回は、設備総合効率（OEE）などの成果データや最新事例をもとにTPMの有効性を示し、TPMが現場力、そして企業競争力の強化に寄与しているかを紹介する。</p>
<p>6 A会場 3月6日</p>	<p>アナログ時代に蓄積した技術とデータを活用した設備保全DX</p> <p>富士フイルムエンジニアリング株式会社 神奈川事業場 小田原サイト エンジニアリング事業部 課長</p> <p>岩 本 浩 一</p> <p>労働力とベテラン社員の減少に伴い、労力と経験に依存した設備管理からの脱却を図るべく、先進技術を活用したDX化を推進している。本発表では音響診断技術を用いて開発した、伝動ベルトのオンライン張力監視による故障の未然防止や点検工数の削減事例と蓄積した保全情報を活用したAIにより、若手人材の経験不足を補完するシステムについて紹介する。</p>	<p>8 A会場 3月6日</p>	<p>省エネ診断は設備の健康診断 ～『もったいない』の見える化で設備のご機嫌いい～</p> <p>日産自動車株式会社 いわき工場 環境エネルギーグループ 指導作業員</p> <p>長 谷 川 賢 二</p> <p>十数年前は生産や品質が優先で、省エネに対しては関心が薄かった。しかし、省エネ診断が設備の不具合の見える化を実現し、コスト削減だけではなく設備の信頼性向上にも繋がるのが理解されるようになった。今では『もったいない』を合言葉に、TPMの一環として、全員が当たり前のように省エネに取り組めるようになった事例を紹介する。</p>
<p>6 B会場 3月6日</p>	<p>SaaSを活用した定期修繕現場の効率的な運用</p> <p>株式会社東京ファクトリー 本社 代表取締役</p> <p>池 実</p> <p>定期修繕工事中は、設備の消耗具合や現場作業内容を残すために写真撮影が多く行われる。しかし、元請け企業では、写真整理業務やレポート作成業務を残業で対応する傾向があり、大きな負荷となっている。本発表では、写真をもとにデータベースを構築するSaaSを活用することで業務の効率化や、現場状況の可視化により工事リスクの低下を実現する取り組みについて紹介する。</p>	<p>8 B会場 3月6日</p>	<p>経営課題に挑む設備保全 — データ活用とアセットマネジメントによる資産価値の最大化</p> <p>八千代ソリューションズ株式会社 代表取締役社長</p> <p>水 野 高 志</p> <p>製造業では、設備の老朽化や人材不足への対応、そしてコスト削減が重要な経営課題となっている。設備は、企業価値を生み出す重要な資産であり、その価値を最大限に引き出すためには、データにもとづく意思決定が欠かせない。本発表では、アセットマネジメントの実践を通じて、設備を資産として捉え直し、持続的なコスト最適化と保全の高度化を実現する取り組みを紹介する。</p>
<p>7 A会場 3月6日</p>	<p>サステナブルな保全体制とスマート保全</p> <p>住友化学株式会社 大分工場 工務部電気設計保全T</p> <p>宮 崎 将 太</p> <p>昨今の人材不足により、従来の保全体制が維持できない状況になりつつあるため、さまざまな解決策を洗い出している。その内の一つとして、新しい点検支援アプリの導入やPower Appsによる自作アプリの活用といったDXを用いる保全を取り入れ、点検報告書作成のオンタイム化と共に持続可能な保全体制の構築を目指した事例を紹介する。</p>	<p>9 A会場 3月6日</p>	<p>デジタル(XR)を活用した『技能の暗黙知の見える化』と『業務効率化』の取り組み</p> <p>トヨタ自動車株式会社 貞宝工場 モノづくりエンジニアリング部 GM</p> <p>田 中 亮 太 郎</p> <p>日本の労働人口が減少していく状況で、業務を「効率的に」だけでなく、次世代への技能伝承を「早く」「簡単に」が求められている。我々はデジタル（XR）技術に着目し、業務の効率化、技能伝承をXRを活用しながら働き方を変えていく取り組みを進めている。本発表では、その事例をいくつか紹介する。</p>

設備管理全国大会とは？

- 設備管理全国大会は、**設備管理における本格的な技術発表会**として、開催回数60回を超える歴史ある大会です。
- 保全・工務・設計・生産技術・製造など、幅広い分野の管理者・スタッフ・経営幹部のみなさまの**設備管理に関する意識向上と進化に寄与することを目的に**、プログラムを構成しています。
- **設備管理に携わる方々の地位向上や、設備管理の課題解決の一助**となる大会を目指し、「設備管理全国大会」を開催しています。

第64回 大会テーマ

01

具現化される設備管理DX

02

サステナブルな設備管理
(人づくり・体制づくり・保全技術)

03

設備管理エンジニアの将来像とは

- 企画委員会は、前年度までの主題を継承し、成熟した議論を促します。主要テーマは次の3つです。
- **DX(デジタルトランスフォーメーション)**
第62回から継続。業界で導入が進み、成果事例も増加中。最新動向の共有と課題の深掘りを行います。
- **サステナブル**
第63回から追加。設備の延命化、人材育成、技能伝承など持続可能性に関する課題に焦点。具体的な取組事例を紹介します。
- **設備管理エンジニア**
第61回以降推進。専門性と役割の再評価を通じ、現場で活躍する人材の価値を発信します。
- これらを基盤に、**設備管理の未来像と求められる人物像**をより深く探究します。



パネルディスカッション



発表会場の様子

設備管理全国大会 企画委員ご紹介

- 委員長
山口 正人 (富士フイルム株式会社)
- 副委員長
吉田 信行 (富士フイルムエンジニアリング株式会社)
重藤 祐二 (ボッシュ株式会社)
- 委員
越智 則夫 (出光興産株式会社)
大山 邦利 (JFEスチール株式会社)
川瀬 直広 (株式会社デンソー)
吉田 誠 (日産自動車株式会社)
松田 善介 (公益社団法人日本プラントメンテナンス協会)



開催会場・アクセス

浅草橋ヒューリックホール & カンファレンス

(〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-22-16 ヒューリック浅草橋ビル)

- JR 総武線「浅草橋駅(西口)」より徒歩1分
- 都営浅草線「浅草橋駅(A3出口)」より徒歩2分
- ※駐車場のご用意はありません。
- ※公共交通機関をご使用のうえご来場ください
- ※アクセス情報

<<https://hulic-hall.com/access/>>



参加お申込み

専用サイト<<https://info-jipm.jp/event/management/>>
の”参加お申込み”から



参加料(上段:税込み価格、下段:本体価格)

	両日料金	片日料金
会員価格※1	¥55,000-/名 (¥50,000-/名)	¥40,150-/名 (¥36,500-/名)
一般価格	¥69,300-/名 (¥63,000-/名)	¥51,150-/名 (¥46,500-/名)
TPM経営者 懇話会会員価格※2	ご招待	ご招待

- 参加料には、昼食・テキスト(資料)代が含まれています。

※1 会員価格の適用には、公益社団法人日本プラントメンテナンス協会(正会員・事業所会員)、もしくは一般社団法人日本能率協会(法人会員・協賛団体会員)の会員であることが必要です
会員ご入会の有無は、下記WEBサイトにてご確認ください

- ・公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会
<<https://www.jipm.or.jp/company/memberlist/>>
- ・一般社団法人 日本能率協会
<<https://list.jma-member.com/>>

※2 TPM経営者懇話会会員価格の適用には、公益社団法人日本プラントメンテナンス協会 TPM経営者懇話会の会員であることが必要です

会員以外の方は、
この機会にぜひ当会会員へのご入会をご検討ください

参加申込方法・参加料支払方法

- 派遣窓口ご担当者、および参加者が「参加申込み規定」に同意したうえで、上記の専用WEBサイトよりお申込みください。FAXでのお申込みはできません
- 複数名でのご参加をご希望の場合も、上記の専用WEBサイトに一括お申込みが可能です
- お申込みの際は、本紙ならびにお申込みWEBサイトに記載の注意事項の内容をよくご確認のうえお申込みください
- 参加申込みは、開催前日まで受付いたしますが、テキスト(資料)・昼食(お弁当)などご用意できないこともございますので、お早めにお申込みください
- 開催日2週間前より窓口ご担当者あてに請求書をメールにてお送りいたします。請求書に記載の入金期日・銀行口座にお振込みください。なお、振込に関わる手数料は貴社にてご負担ください
- キャンセル規定
開催当日～7営業日前の参加取消し:参加料全額
※2026年2月26日(木)よりキャンセル不可となります
※キャンセル・変更は、以下URLよりお願いいたします
<<https://info-jipm.jp/contact/>>
お問い合わせ>イベント申込み後のお問い合わせ

- 録音・録画・撮影、およびSNSへの投稿は禁止です。守られなかった場合、著作権・肖像権侵害として対処することがございます。また今後の参加をお断りすることがございます
- 免責事項
天災地変や伝染病の流行、大会会場・輸送等の機関のサービスの停止、官公庁の指示等の当会が管理できない事由により大会内容の一部変更および中止のために生じたお客様の損害については、当会ではその責任を負いかねます
- 個人情報に関する取り扱いについて
ご記入いただいた個人情報は、当大会の運営・管理・資料送付、出欠の確認等に利用いたします。また、後日、当会より事業・サービス・セミナー等のご案内を送付させていただきます場合がございます。当会は、ご提供いただいた個人情報を当会のプライバシーポリシーに則って安全対策を施し適切に管理いたします。当会のプライバシーポリシー、個人情報の開示・訂正・削除等の詳細につきましては、当会ホームページ(<https://www.jipm.or.jp/>)をご覧ください



公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会

Japan Institute of Plant Maintenance

設備管理全国大会企画委員会

TEL:0120-451-466(または03-6865-6081)

E-mail:EVENT@jipm.or.jp

お問合せは、普及推進部まで